



わが進明

校訓：明るく 正しく たくましく

福井市進明中学校
学校だより 第3号
令和元年5月8日
TEL (0776)20-5128
FAX (0776)20-5129

URL <http://www.fukui-city.ed.jp/shinmei-j/>

○スクールプランの実現に向けて全力で取り組みます！

今年度の学校経営方針である「スクールプラン」が下記のように決定しました。本年度も「わくわく」「はつらつ」を合い言葉に、「わくわく」する教育活動の展開と「はつらつ」とした生徒、教職員をめざします。特に本年度は、研究副主題にもあるように、「地域資源を活用した学び」を展開していきたいと考えています。これまで以上に、地域資源の活用を教科カリキュラムの中に積極的に位置づけていきます。さらには、公民館を学習する場として利用させていただくとともに、「まちの先生」を発掘するなど、地域と一体となった学力向上にも努めていきます。また、子どもたちには、特に「自律」・「自立」を求めています。「ノーチャイム」の取組などを通して、タイムマネジメント力を醸成していきたいと考えています。

このような取組を通して、安全・安心のもと、感謝する心、節度ある言動に包まれた、笑顔あふれる活力ある学校をつくっていきますので、御家庭や地域の御協力をお願いします。



校訓
明るく
正しく
たくましく

☆「わくわく」する教育活動の展開
☆「はつらつ」とした生徒、教職員

めざす学校
笑顔があふれる学校
安全で安心できる学校
地域とともに歩む学校

H31 キーワード **自立・創造・誇り**
(基底) 安全・安心 感謝 節度

平成31年度 福井市進明中学校 スクールプラン

学校教育目標
豊かな心を持ち、自ら学び創造する生徒の育成
自他の人格を尊重し、正義を愛する生徒の育成
心身ともに健康で、意思力と実践力に富む生徒の育成

めざす生徒像
夢や目標に向かい、はつらつと生きぬく生徒

研究主題 **主体的・協働的に学ぶ生徒の育成**
～地域資源を活用し、深い学びにつなげる教育活動の展開～

福井市 学校教育目標
郷土福井に誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成

学校教育方針
地域に根ざす「学びの一貫性」

進明中学校区教育のテーマ
考えや思いを伝え合う力の育成

めざす教職員の姿
○子どもの成長のため、情熱と使命感を持ち続ける教職員
○常に改善を意識し、組織の一員として協働する教職員
○豊かな愛情と高い目標を持ち、夢や希望を語る教職員

福井市 学校教育目標
郷土福井に誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成

学校教育方針
地域に根ざす「学びの一貫性」

進明中学校区教育のテーマ
考えや思いを伝え合う力の育成

めざす教職員の姿
○子どもの成長のため、情熱と使命感を持ち続ける教職員
○常に改善を意識し、組織の一員として協働する教職員
○豊かな愛情と高い目標を持ち、夢や希望を語る教職員

確かな学力	豊かな心・健やかな体	自立した生徒活動	地域との絆づくり
授業改善の推進	互いに認め合える場の設定	夢を育む主体的活動の工夫	地域とのつながりの充実
◎主体的・対話的で深い学びの研究推進と具体的実践の積み上げ ○地域を題材としたカリキュラム、授業の提案 ○学習課題の明示、興味や疑問を生かした学習展開の工夫、集団で高め合い発展する学びの工夫 ○目標・評価・分析、改善サイクルの確立 ○ユニバーサルデザイン教育の推進、基礎基本の確実な習得、個に応じた丁寧な支援の充実 ○読書活動、言語活動の工夫 ○家庭学習の定着 ○小中連携し9年間の学びを充実	◎安心して互いの意見を認め合える集団づくり ○社会のルールやマナー、場に応じた言葉遣い等の適切な指導 ○全校道徳、小中合同挨拶運動、人権集会の取組 ○いじめ、生活アンケートの実施と活用 ○体の成長と食に関心を持たせ、健康で強い体づくりの推進 ○家庭生活の見直し、小中でSNS等メディア活用のある方を改善、情報モラル教室の開催	◎生徒が主体的に自らの手で創り上げる自律した活動の充実 ○タイムマネジメント力の醸成 ○対話力の質の向上 (「自分の言葉で表現→他者の意見や発表を傾聴→根拠をもとに考えや思いを再構築・表現」) ○明るい挨拶、元気な歌声の推進 ○黙勤清掃の一層の充実 ○縦割り活動や学校行事、部活動等の目的の明確化と活動の充実 ○系統的キャリア形成の工夫	◎地域連携、学校間の連携による学習活動の推進 (地域資源の探査、挨拶運動や清掃ボランティア、職場体験学習等) ○地域施設の活用(公民館を学習する場として利用するとともに、町の先生を発掘する) ○地域活動に参加機会の設定 ○積極的な学校公開、各種通信の発行、HP等での情報発信 ○家庭・地域・学校協議会の積極的な活用
☆授業が充実していると答える生徒 90%以上 ☆先生は授業を一生懸命教えてくれると答える生徒 95%以上 ☆図書年間貸出数 6,000冊	☆いじめ、生活アンケート 毎月 ☆相手を思いやって行動できていると答える生徒 90%以上 ☆安心して生活できると答える生徒 95%以上	☆生徒会活動に積極的に取り組むと答える生徒 90%以上 ☆友人ときちんとコミュニケーションできると答える生徒 90%以上 ☆将来の夢や目標を持っていると答える生徒 70%以上	☆地域行事への参加 年5回以上 ☆地域の方々に挨拶をしていると答える生徒 80%以上 ☆学校は信頼にたよるとしている保護者 90%以上

(業務改善のための取組)

○ 計画的な業務遂行の推進、徹底。行事、業務の精査、整理。運営マニュアル作成。時程の変更。業務改善推進委員会による提起、検証。
 ○ 会議等、終了予定時刻の明示。会議は、PC等活用し、変更・提案部分を朱書きして説明。短期業務改善個人目標の作成。

○開校記念式校長講話

4月26日(金)、開校記念式が開かれました。本校の開校記念日は5月1日ですが、本年度は「即位の日」として休日となったため、連休前の26日に行われました。その時の校長講話を紹介したいと思います。

スライドを使いながら、開校から現在までの本校の歩みを振り返っていきました。まず始めに、第1回卒業生で卒業証書番号第1号の前田健治さんが書かれた開校当時の思い出話が紹介されました。昭和22年といえば戦後まもなくであり、物資が不足していたこと、その中でもみんなとよく学び、よく遊び懸命に学校生活を送ったこと、そんな中学校生活を通してその後の人生の糧となる「ものを大切にすること」「労力を惜しまないこと」「人と仲良く接すること」を学ばれたことなどが紹介されました。次に校章の意味や、昭和24年3月10日に現在の地に新校舎が建設されたこと、さらに、昭和24年4月1日に制定された校名の由来などが次々と紹介されていきます。進明という校名は、「進放小」と「道明小」(現在の松本小)という2つ小学校の校名から1字ずつ取っていること、「進放」という校名は松平春嶽公が命名されたことも紹介されました。さらに、進放小学校は現在の進明中の校地にあったこと、そしてあのノーベル賞を受賞された南部陽一郎氏もこの地で学ばれたことが紹介されました。その後も、本校の歴史が語られていきます。

当時は、校庭が校舎の南側(現在の校舎が建っているところ)にありました。



S24.3.10 新校舎(南校舎)建設



初代校長 坂本豊先生

講話の途中で、校長先生は次のような問題を出されました。それは、「体育館に飾られている『進明講堂』の額、湯川秀樹氏から贈られた『自分一人ではなく、皆が仕合わせになれるか ー人生の一大事ー』という言葉、『校歌』の3つ中で、一番最初にできたものは何？」という問題でした。正解は『進明講堂』、『人生の一大事』、そして『校歌』の順でした。そして、初代校長の坂本豊先生の

「母校のよい校風の根源の一つに、安部能成先生の『進明講堂』の額、湯川秀樹先生の『人生の一大事』という教訓、そして格調の高い校歌がある。」という言葉が紹介されました。さらに、校歌の歌詞にある「羽ばたき」について、第6回卒業生の「何処にあっても何処へ向かってでも羽ばたけるもの。地元の地域社会、日本の中央社会の大舞台、世界の国際的な檜舞台であろうが、雄々しく羽ばたけるもの。それが、進明同窓生の本質。」という言葉も紹介されました。ちなみにこの「羽ばたき」という言葉は、同窓会誌のタイトルにもなっています。最後に、『学校だより』のタイトルである「わが進明」も校歌の中の一節であることに触れられ、進明中で学ぶことに誇りと自信を持って欲しいという校長先生からの熱いメッセージが生徒に届けられました。

初代校長の坂本豊先生の言葉にあるように、『進明講堂』の額、湯川秀樹先生の『人生の一大事』という教訓、そして格調の高い校歌と、これだけ多くのレガシー(遺産)を持っている学校は他にはあまりありません。この一年「進明プライド」を持ちながら、生徒とともに新たなレガシーを本校の歴史に刻み込みたいものです。

